部活動経験・アルバイト経験がコミュニケーション能力に及ぼす影響

小幡直弘

(北海道大学大学院 文学研究科)

キーワード：コミュニケーション能力、ソーシャルスキル自己評定尺度、ENDCOREs

Effect of experiences of club activity and part-time job on communication skills.

Naohiro OBATA

(Department of Psychology, Hokkaido University)

Key Words: communication skill, social skills self-rating scale, ENDCOREs

目 的

企業が望んでいる人材において最も必要不可欠な要素として、コミュニケーション能力が掲げられている。しかしながら、コミュニケーション能力の定義には、具体的な意思疎通能力から、相手の反応や場の空気を読み取る力、さらには人間関係の調整や維持するスキルまで含まれており、包括的な概念であるため、単一の尺度で測定することが困難であると言われている。

そこで、本研究では、コミュニケーション能力の測定のために、コミュニケーション能力を包括的にとらえる試みで作成された相川・藤田(2005)のソーシャルスキル自己評定尺度を用い、コミュニケーション能力の測定尺度としての信頼性、妥当性を検討することを第一の目的とした。さらに、学生時代の部活動やアルバイト経験が、これらのコミュニケーション能力と関連があるかについてもあわせて検討した。

方 法

実験参加者 講義「人間関係論」を受講している学生236名(男性158名、女性78名)。

手続き 講義時間内で実験参加者に質問紙を一斉配布し回答してもらった。

質問紙の構成 質問紙は、調査対象者の性別、部活動経験(運動部、文化系部活動、経験なし)、アルバイト経験(接客業、非接客業、経験なし)に回答する項目と、相川・藤田(2005)のソーシャルスキル自己評定尺度全35項目、および基準関連妥当性の検討のために用意したENDCOREs(藤本・大坊, 2007)全24項目で構成されていた。最後に、自分でコミュニケーション能力があるかを判断する主観評価についても回答させた。

結 果

信頼性・妥当性の検討 ソーシャルスキル自己評定尺度の信頼性を検討するために、各因子について、それぞれクロンバックの α 係数を算出したところ、「関係開始」因子では、 $\alpha = .871$ 、「解読」因子では、 $\alpha = .706$ 、「主張性」因子では、 $\alpha = .615$ 、「感情統制」因子では、 $\alpha = .687$ 、「関係維持」因子では、 $\alpha = .561$ 、「記号化」因子では、 $\alpha = .630$ だった。「関係維持」因子ではやや値が低いものの、概ね一定の信頼性を保っていると考えられる。次に、妥当性の検討のために、ENDCOREs、および主観評価との相関係数を算出した。その結果、ソーシャルスキル自己評定尺度とENDCOREsの合計点の相関が、 $r = .742$ 、ソーシャルスキル自己評定尺度と主観評価との相関が、 $r = .582$ と、いずれも有意な相関が確認された。さらに、ソーシャルスキル自己評定尺度とENDCOREsの下位尺度間においても相関が確認されており、これらのことから、ソーシャルスキル自己評定尺度に一定の妥当性があるということが示された。

図1. 項目別のバイト経験比較

部活動経験・アルバイト経験の有無による比較 次に、部活動経験(運動部、文化系部活動、経験なし)、アルバイト経験(接客業、非接客業、経験なし)ソーシャルスキル自己評定尺度の値が異なるかを分散分析によって検討した。部活動経験においては、因子の主効果($F[5, 1165] = 33.49, p < .001$)、交互作用($F[5, 1165] = 2.81, p < .01$)は有意であったものの、経験の有無によってソーシャルスキル自己評定尺度の値に違いは見られなかった($F[2, 233] = 0.518, n.s.$)。

一方、アルバイト経験の違いによる比較では、因子の主効果($F[5, 1165] = 41.37, p < .001$)、交互作用($F[5, 1165] = 3.09, p < .001$)は有意で、アルバイト経験の主効果に有意傾向が見られた($F[2, 233] = 2.70, p = .069$)。Bonferroni法による単純主効果検定の結果、「主張性」「記号化」において、接客業経験者は、アルバイト経験なしの者よりも評価が有意に高かった。また、「関係開始」「解読」において、接客業経験者の方が、アルバイト経験なしの者よりも評価が高いという傾向が示された。

考 察

本研究の結果、コミュニケーション能力に部活動経験が及ぼす影響は明確には見られなかったが、アルバイト経験の及ぼす影響があることが示された。ただし、因果関係までが明確になったわけではなく、こうした経験を通じてコミュニケーション能力が向上していくかについては検討の余地があると言えよう。

引用文献

相川充・藤田正美(2005). 成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成. 東京学芸大学紀要第1部門 教育科学, 56, 87-93.
藤本学・大坊郁夫(2007). コミュニケーション・スキルに関する諸因子の階層構造への統合の試み. パーソナリティ研究, 15, 347-361.